

イエスは主なり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

# 日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 109



## 朝の恵み

マルコ 1:35

鍋倉 勲

この春、母校の西南学院神学部の卒業礼拝で説教者のA牧師は「イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外に何も知るまい。」と奨励し、祝辞に立った学院理事長のI牧師は「牧会の基本は聴く事」だと示し、神（みことば）に聴き、信徒に聴き、家族に聴け、と励ました。私自身、もう一度、新卒の伝道者たちと共に福音の役者の原点に立たされる思いがした。

顧みれば、36年前に最初に副牧師として招かれたのが東京の大井バプテスト教会であったが、着任の翌日から早朝六時の鐘つき、早天礼拝、園庭掃除、それから朝食というハードな日課が始まった。しかし、日が経つにつれて大谷牧師のダイナミックな伝道牧会の源泉は朝の祈りにある事が教えられ、殊に松枝夫人の祈りが如何に伝道牧会、教会形成を支えていたか、今にして実感する。今年三月の大谷牧師の告別式で、本田弘慈先生が「伝道の巨星落つ之感」とお別れの言葉を述べられていたが、大谷牧師は実に、信仰と祈りの人であった。

1968年許されてアメリカ留学のころ、アメリカはベトナム戦争や公民権運動で国全体が揺れ動き、ヒッピーや反戦運動が強くなり、教会のあり方が問われていた。しかし、その状況の中で「スモール・グループによる教会の革新運動」が起こり、祈りとみことばの静かな毎日の黙想の時間を確保し、お互いの日常生活の中で神が何をして下さったかを分かち合っていた。キリストへの明け渡しを重視し、キリストの臨在を確認する信徒運動であった。S・ジョーンズの母校アズベリー神学大学より車で一時間余のところでのこの運動に浴したのも不思議である。当時、子供の交通事故の折も、七週間に及ぶ意識不明の状況から多くの方々の祈りによって「小さな命」が再び与えられ、感動の日々を過ごした恵みを思う。

1970年、帰国して牧師就任式の翌日から神学校のストが起こり、教会もまた渦の中にあった。翌年、奇しくも最後の訪日のアシュラム運動のS・ジョーンズ博士の鞆持ちとして二週間余お仕えする光栄に浴し、アシュラム運動の真髄に触れる特権を頂き、早速、鳥飼教会でも取り入れた。23年余に及ぶ牧会生活で試練や困難にも多々直面した。しかし「イエスは主なり」と祈る信徒の群れが与えられた。現在、西南女学院宗教主任の責任が与えられ、多忙な中で冒頭の聖句が示すイエスの模範に倣いたいと切に祈っている。

(小倉春ヶ丘バプテスト教会協力牧師・西南女学院大教授・日本アシュラム連盟九州地区委員長)



スタンレー  
ジョーンズ  
コーナー

説教者・アシュラム創始者ジョーンズの生涯  
(8) J・マシューズ

幸いにも、医師らは心から賛成して呉れました。あきらめようとしな  
い人には、め入りこんでいるよりは  
困難な旅行で危険を冒す方がよいの  
です。

彼は作業療法師である孫娘のアンと、  
介添人として二十才で同名の孫スタ  
ンレーを、同行させてインドに連れ  
て行くように私に頼みました。

出発の前に彼は私に、「ジム、私が  
もう一度歩けるよう助けて呉れるね」と尋ねました。私はほとんど考えず  
にそうすると答えました。何年も前  
に私は医学を学ぼうと企てたことが  
ありました。それで私の内に隠れた  
医者が住んでいました。でなければ、  
私にそう答えるよう他の何者かが促  
したのでしょうか。

私たちはひそかに先が四つ足の杖  
を買って、ベッドの下に隠しました。  
医者である我々の娘は、そのような  
医学的判断の無視を容易に認めよう

とはしませんでした。その杖が空港  
で見つかった時の彼女の驚きはどん  
なであったでしょう。

私たちは途中フランクフルトで一  
日の中休みをしようと思っていまし  
た。その時、出発の日の夕方、国際織  
物共進会が五十キロ圏内の部屋をす  
べて先取りしたために、私たちのホ  
テルの予約が取り消されたこと知ら  
されました。大西洋を越えての電話連  
絡で私たち一行のために、フランク  
フルトのあるメソジスト病院に宿泊  
を確保しました。そこでドイツ人  
奉仕女から施された優しい配慮以上  
のものを想像できません。次いで、私  
たちはニュー・デリーに飛びました。  
そこで地獄のような場所へ私たちは  
足を踏み出しました。というのは、私  
たちを迎えた空港は溶鉱爐のよう  
でしたから。気温は華氏一一七度で、イ  
ンドが長年経験した中で最も激しい  
暑さの一つでした。インド内閣の閣  
僚の代表者が、このインド人をこよ  
なく愛した友の行く手を楽にして呉  
れました。スタンレー兄弟はサトタ  
ルへの三百マイルのために、空調設  
備のある車を備うのは浪費である  
と考えました。私たちはどのみちそう  
しました。にもかかわらず、情け容赦  
なく吹きつけるごみだらけのひどい  
風の直中を、北インドの枯れた平原  
を通った丸一日の旅は、私たちをジョー

ンズ博士の愛したヒマラヤの休息地  
に届けました。起こりそうにない旅  
行はなしとげられたのです。

早速次の朝、最初の歩行練習が英  
国人の建てたバンガロー風の古い住  
宅のベランダで始まりました。その  
努力は惨めな失敗に終わりました。  
次の朝も結果は同じでした。スタン  
レー兄弟は助けられて辛うじて立っ  
たのみです。独りでは彼は自分のパ  
ランスを直ぐに失いました。ポスト  
ンの医師たちの予想が当たっていたか  
のように思われ出しました。

しかし三日目にある変化が現われ  
始めました。毎朝アシュラムの家族  
は使徒言行録を学びました。その朝  
の引用句は美しの門と呼ばれる宮の  
門にいた足の動かない人に関連して  
いました。その人が使徒たちに、施し  
を求めた時、ペトロは彼に言いまし  
た。「私には金や銀はないが、持って  
いるものをあげよう。ナザレのイエ  
ス・キリストの名によって立ち上り、  
歩きなさい」。その日から、私たち  
が、歩行練習を始める前に、スタンレー  
兄弟の耳にささやいたのはこの言葉  
でした。同じその日、私たちは丸一週  
間にわたる二十四時間の連続祈禱を  
始めました。私たちはスタンレー兄  
弟のためだけでなく、平和のため、  
人類全体のために祈りました。ボラ  
ンティアの人々が徹夜の祈りの当番

を引き受けました。電気がないので、  
その小さな部屋は加圧式のカンテラ  
かローソクで照らされていました。  
でなければ、祈りの時は熱帯の満月  
の強い光によって、ベランダで守れ  
ました。ヒマラヤの夜の音や静寂の  
中で、そのような環境にあつて、一、  
二時間の間の祈りは、神の臨在と神  
の人を改変する御力を深遠な仕方  
で経験させるものでした。その上、日中  
に私たちの何人かが断食して祈り  
ました。食事の時間が来ると、私たち  
は食卓に行くよりは小さいチャペル  
に行きました。私たちの誰も、これら  
の日々ほど多く、熱心に祈ったこと  
はないと思います。そして祈りは聞  
かれまた答えられました。

(白川訳)

アシュラム生活最良の友  
**アパ・ルーム**  
海老沢 宣道 編集  
(年6回刊行の日々の糧)  
国際的、超教派的、霊的な読物  
価300円、〒90円、年2,340円(〒共)  
申込先 ☎256 小田原市国府津3-11  
振替口座 00110-7-193834 アパ・ルーム  
電話番号 0465-48-2010  
日本語版は創刊以来46年続行中



第28回 城北アシュラム 1997年2月11日(火) 池の上キリスト教会

城北アシュラム

★城北一日アシュラムの報告★

去る二月十一日(祝)、恒例の城北アシュラムが、主催教会である天門、更生、新宿西、池の上のほか近隣の教会より八十九名の参加を得て、池の上キリスト教会を会場として開催された。主題は「イエスは主である」(ピリピ2:11)。十のグループに別れての祈りの細胞も二度持たれ、一同、聖霊の導きを受け、恵み豊かな一日を過ごし、献身の想いを新たにすして五時すぎ散会した。

(飯島報)

▽関東アシュラムの予告

- 一九九七年九月二十日(月)〜二十四日(水) 箱根仙石原 山崎製パン箱根山荘
- 主題 「キリストのためにどんなことでもする」(ピリピ2:11)
- 助言者 斉藤剛毅師(福岡女学院大 学人文学教授 牧師)
- 会費 一八、〇〇〇円
- 申込先 連盟事務所 大石嗣郎 〇三三三七二二一五七五八



関東アシュラムの助言者斉藤剛毅師のプロフィール

一九三六年、東京に生まれる。国際基督教大学卒。西南学院大神学専攻科卒。明石市にて開拓伝道に従事、米国サンプトン神学大学よりM.F.D.取得。米国ジョージタウン大学客員教授を経て、現在福岡女学院大学人文学教授に在職。

著書「神と人との誠と愛を」、「初代教会の歩み」外。

訳書「聖霊の働き」、「祈りの意義」、「十字架の決定性」、「祈りの精神」等多数、ヨルダン社より刊行。

\*訂正 前号の国際アシュラム委員ウイリアム・バーク師の訃報は、「同師夫人逝去」の誤りでしたので、謹んで訂正し、哀悼いたします。

アシュラム連盟通常会計中間報告

1997年2月13日現在

収入の部		支出の部	
1995年繰越金	60,952	総務役員会	140,403
地区分担金	192,000	(4回含交通費)	
(郡山、九州、函館栄光、関東)		臨時全国理事会	214,000
賛助金	206,500	(交通、宿泊費)	
本年度不足額(-)	127,883	アシュラム会報代	148,790
		(104~107印刷、送料)	
		地区強化費	10,500
		広告費	57,500
		雑費	16,142
合 計	587,335	合 計	587,335

アシュラム連盟書類販売収入会計中間報告

1997年2月13日現在

収入の部		支出の部	
販売高	159,460	出版元へ支払	13,000
内訳		雑費(送料)	7,810
さんびか	16,000		
いかに祈るか	51,100		
その他	92,360	差引残高	138,650
収入合計	¥159,460	支出合計	¥159,460

会計 大石嗣郎、飯島庸江  
賛助金納付者(順不同、敬称略) 石神勇、白川鄭二、古河治、淵江淳一、土山牧羔、海老沢宣道、飯島庸江、中川博、石谷類造、大石嗣郎、増中裕江、永田直子 以上十二名  
会計 大石嗣郎、飯島庸江

▼聖ヨハネによる福音書

D.P.タイタス著 海老沢飯島共訳  
価一、二〇〇円 千二四〇円

▼御国を来らせ給え

D.P.タイタス著 植村俊雄訳  
価三〇〇円 千九〇円

▼インド途上のキリスト

一九八六年一〇月改定版  
E.S.ジョーンズ著 新訳者 淵江淳一  
価一、九〇〇円 千三六〇円

▼アシュラムの原則と実際

海老沢宣道 著 第三版  
新書版五二頁三〇〇円 千九〇円

日本アシュラム四十年記念出版

▼いかに祈るか

今世紀最大の世界的宣教師  
スタンレー・ジョーンズ博士著  
白川鄭二・飯島庸江共訳

祈りの人スタンレーが祈りとは何か、祈りの段階と方法と実例を親切に教えている好著。

◆教会その他の祈祷会で用ゆるのに最適の好テキスト

新書判七〇頁

定価六〇〇円 千一九〇円

発行所 日本クリスチャン・アシュラム連盟

振替口座 〇〇一〇〇一四五五八

第18回アシユラム連盟理事会案内

▽一九九七年六月二日(月)二時

三日(火)十二時

箱根仙石原・山崎製パン箱根山荘

第5回クリスマスチャン・アシユラムセミナー開催

▽一九九七年六月三日(火)二時

四日(水)十二時

箱根仙石原・山崎製パン箱根山荘

▽セミナーの発題者・鍋島勲師(西南女学院大教授宗教主事・アシユラム九州地区委員長)。

▽懇談会「日本の教会とアシユラムの将来について」

どなたでもご参加下さい。会費七千五百円(宿泊費、食費六千円を含む)会場で納入して下さい。申込みは五月十五日迄に碑文谷教会・大石まで。

☎〇三―三七二―一五七五八

◆消息

○中島 彰師・イエス・キリスト教団顧問・関西聖書神学校教授・垂水教会名誉牧師・関西アシユラム委員。昨年末から病氣ご静養中のところ、三月十六日、八十九才でご永眠。いのちのことは社から多数の霊的書物を刊行された。また日本アシユラム関西地区委員として永年指導に当たられ全国のアシユラムにも多大の貢献をされた。謹しんで哀悼します。

○飯島延治兄(関東アシユラム委員・池の上教会員山崎製パン社長)は昨年五月社団法人日本パン工業会々長に就任、また同年十月ワールドビジョン・インター・ナショナルの理事にも就任された。ますますの御活躍をお祈りします。

〈四十年の恵み〉  
日本アシユラムの歩み(4)  
海老沢 宣道

◆第七回全国縦断伝道と第四回アシユラム退修会

前回は一九五九年にスタンレー・ジョーンズ師は七五才の老体を駆り二月から四月までの二ヶ月余、全国巡回伝道に奉仕されたことを、本誌一〇四号に記したが、書き忘れた大事なことがあった。それはこの年が丁度わが国新教の宣教百年に当たり、NCC主催で全国各地に超教派の記念集會が計画されたと同時に、このスタンレー・ジョーンズの全国伝道もこの宣教百年記念事業の一環として合流して行なわれたことである。

今一つは五五年に、我国で初めてのアシユラムが天城山荘で開かれ、五七年には第二回が全国六ヶ所を守られ、続いて五九年にも第三回アシユラムが六ヶ所で開催されたことである。さて、そこで今回第七回の全国伝道は時期を珍しく秋に移して、九月十五日から十一月末まで二ヶ月半に

わたり、相変わらずのお元気で喜寿とは思われない活躍ぶり、前半の一ヶ月余はフィッツシャー博士、後半にはシーマンズ博士(アズベリー神学校)という何れも祈禱生活の指導者として有名な教授たちを同伴され、各地の超教派合同の伝道会とか祈禱会の他、初めて八地区でアシユラム退修会を催された。この度の集會は六三回、出席人数は二万余り、求道決心者は七千人の多きに達した。

◆第五回アシユラム退修会

翌一九六二年には、前年のアシユラムのあとで、スタンレーが「私が来た時だけではなく、来ない年にもアシユラムを守って欲しい」と言い残されたので、当時のNCC総幹事の平井清氏が中心になって、計画を進めたことは判っているが、残念ながら資料が手元にないので集會の様について書くことができない。誰か資料をお持ちの方は見せてほしい。

◆第八回全国縦断伝道と第六回アシユラム退修会

一九六四年に八十才になられた博士から、まだ元氣だから愛する日本の救いのために、応援したいとの便りが来たので、この年は三月から五月にかけて、全国の超教派合同伝道会を四十回開催した。今回はスエーデンの霊的指導者ステン・ニールセン博士を同伴され、各地で深い信仰の感化を与えられた。全国のプログ

ラムが終った時、東京での感謝送別会でスタンレー博士が延べられた感想は傾聴すべきものと思う。

『学生伝道はよかった。準備のよくなされた伝道集會は必ず成功する。然し日本の牧師が疲れた顔をしているのはおかしい。牧師一人に伝道をまかせている卒業信者が多い。信者は悔改めて、伝道に立上って頂きたい』と。(続く)

◎連盟は、創始者の祈りによって各地に生まれた信交によるファミリーの全国的な交わりであって、常に新しい地区(単位)の参加を期待している。

海老沢宣道の新書  
神に就いての黙想

B6判、150頁、価1,300円 7240円

神との生きた対話・交わりを願いつつ綴られた信仰の随想。老熟した著者が現代の教会に問題提起しつつ語りかけるメッセージ。

発売所 キリスト新聞社  
取次 日本クリスチャン・アシユラム連盟

東京都目黒区中央町1-21-10  
碑文谷教会会費付  
日本クリスチャン・アシユラム連盟  
〒151-8501 東京都目黒区中央町1-21-10  
理事 海老沢 宣道  
編集 大石 川 宣道  
発行 白川 宣道  
定価 一部60円 二部80円